

貴会の日頃の活動に敬意を表します。

貴会からいただいた御意見を受け、現在、京都市が進めている京都会館再整備についての考えを述べさせていただきます。

今回の京都会館再整備は、1960年に建設されて以降、これまで50年以上にわたって市民をはじめ多くの皆様に愛され、使われ続けてきた京都会館を、今後の50年間を超えて100年以上にわたり公共ホールとして安全に使い続けるために行うものです。もちろん、歴史と伝統、景観を大切にする京都市では、再整備に当たっても、いかに景観と調和し、既存建物の価値の継承を図るかが特に重要と考え、行動しております。

今回の再整備は、京都会館を公共ホールとして機能再生を図るために、京都会館の建物価値を十分に認めたいと、京都会館がその機能を発揮し、使われ続ける会館であるように、京都市として現時点で考え得る最適な計画であると考えています。といいますのも、建物が大事であると同時に、重要なのは、その建物が人々にどのように使われているかではないかと考えており、公共施設はその場に人々が集まり、建物と人々の姿が一体となった時に、そして安全が確保されて初めてその役割を果たしたと言えるのではないのでしょうか。このまま再整備を行わなければ、京都会館を公共ホールとして使い続けることができず、結果的に京都会館を守ることができなくなります。

京都会館の再整備に当たっては、「再整備によって、建物を改変するべきではない」という御意見がある一方で、「公共ホールとして、抜本的な機能充実を図るためには、京都会館をすべて建て替えるべきである」という御意見も数多くあります。それに対して京都市は、2002年以来、耐震調査をはじめ、利用者や市民代表者等による委員会における検討、市民アンケート調査の実施など、様々な取組を積み重ねてきました。また、基本計画の策定に当たってもパブリックコメントを行い、市民の皆さまの御意見を広くお聞きしたうえで、再整備に関する予算について京都市会の承認も得ております。

基本設計においては、公共ホールとして必要な耐震補強やバリアフリー化に加え、舞台機能や音響面での機能充実を図りながら、評価の高い京都会館の建物の価値を継承することを実現します。そのため、抜本的な機能改善が求められる第一ホールは建物価値を継承したものに建て替えますが、第二ホールと会議棟や特に高い評価を受けているピロティから中庭に至る空間構成や外観デザインはしっかりと保存しつつ、全体として大きな地震にも耐えられるような建物とするため、全般的な補強を行うことにより、近代建築に関する「新しい保存の在り方」を実現するものです。

そのため、基本設計は現在の京都会館を設計された前川國男氏と同じく日本建築学会作品賞を受賞されている現在の日本を代表する優れた建築家のお一人である香山壽夫氏に担当いただくとともに、特に、京都会館の建物価値に配慮するため、前川國男氏が設立した前川建築設計事務所や日本建築学会の協力を得て、建築や舞台技術の専門家などにより構成された検討委員会を新たに設置して、京都会館の建物価値を継承した設計となるよう慎重に検討したうえで、基本設計の取りまとめを行いました。

今回の再整備は、老朽化し、安全性も含めて機能の低下した京都会館を、公共ホールとして使い続けるための作業であり、これまでの歴史に新たな京都会館の歴史が積み重ねられ、新たな建物価値として評価される時代が来ることを確信しております。

どうか、賢明なる貴殿の御理解をいただけることを願っております。